

創業からこれまでと、これから



あゆみ

2010-2024

関内イノベーションイニシアティブ
massxmass 関内フューチャーセンター

Kii.co

KANNAI
INNOVATION
INITIATIVE



関内イノベーションイニシアティブ株式会社(Kii)と
Kiiが運営するmass×mass関内フューチャーセンター(mass×mass)は、
今年で創業14年目を迎えました。
これまで様々なかたちに関わってくださった皆様に深く感謝申し上げます。

そして今年、私たちは、新たなステージへと進みます。

創業メンバーで2013年から代表を務めてきました治田友香から、
森川正信へと代表のバトンが渡りました。

この冊子では、今年をひとつの大きな節目として、これまでの「あゆみ」をご紹介しますとともに、
これからの新たな取り組みをお伝えします。

これからも私たちの挑戦と成長を見守り、応援いただければ幸いです。

contents

ご挨拶	01
関内イノベーションイニシアティブ株式会社とは	02
Kiiのあゆみ	04
お世話になった方々へのインタビュー	11
14年間の実績	14
代表対談	16

「濱明朝フォント」を印刷したターボリンをつけて、Local First Wagonが大栈橋にお出かけた時の様子。TENTOに入居していた両見英世さんが横浜のまちをイメージして作ったフォントで、Kiiはクラウドファンディングで資金調達をお手伝いした。

Message

ご挨拶

代表取締役
森川 正信
masanobu morikawa



この度、代表に就任しました森川正信と申します。

2009年、東京でデザイン・ディレクションの仕事をしていた時に、無理をし過ぎたのが大病に。その時に、これからはデザインを通じて目の前の人を幸せにする仕事がしたいと生まれ育った横浜に戻り、iSB公共未来塾・横浜に参加。そこで治田と出会いました。

Kiiとの関わりは、mass×massの立上げにむけ、ホームページを作成したことが始まりでした。その後、施設運営事業で経験を積み、2020年から執行役員、取締役を務めました。

mass×massは企業・スタートアップ・NPO・市民活動・行政など、多様なセクターや個人がフラットに有機的に混ざり合える貴重な場です。志を持ち着実に社会を変えていく社会起業家や、全国のローカルエリアで活躍するリーダーと出会い、多くを学びました。

これからの自分の役割は、これまでの信頼とカルチャーを受け継ぎながら、この場に関わる方々のビジネスや暮らしを少しでも良くする“きっかけ”を生み出し続けることです。新しい仕組みや価値観に触れたり、対話を通じて刺激を受けたりしながら、自ら変化していく“self-development”の場としていくとともに、働くこと、学ぶこと、出会うことが交差する、唯一無二の「まちづくりプラットフォーム」として発展させていきます。

今年12月、mass×massは日本大通りへ移転します。より多くの人たちが行き交う場所で、地域との接点を増やし、さらに豊かなコミュニティを育てていきます。“独立系書店”などテーマ特化型の創業塾をはじめ、私たちがいい切り口で「収益性と社会性のバランスの構築」という今日的なテーマに向き合っていきたいと考えています。

これからの挑戦と一緒に歩んでいただけたら嬉しいです。



創設メンバー／執行役員
治田 友香
yuka haruta

この度、13年間で共に歩んできた森川正信に代表を引き継ぐことになりました。

私自身、当時は株式会社の代表を務めるとは想像もしていませんでした。長くNPO支援に携わり、就任前は(公財)起業家支援財団で事務局長も兼任していました。起業をめざす大学生向けの奨学金事業に従事していたときに見えてきたのは、彼らの多くが志向するソーシャルビジネスに必要な支援が不足している現実でした。

転機は2010年。仲間とともに内閣府に提案した事業が採択され、起業人材育成に参入するきっかけを掴みます。同時期に、横浜市モデル事業を受託し、関内にインキュベーション施設を開設することになり、その運営主体として当社が立ち上がりました。

2011年、いよいよmass×mass開設という日に、東日本大震災が起きます。工事は途中、入居者はたった10名ほどのスタートでした。それ以降、これだけ大きな出来事を経てもなかなか変わらない社会に挫折感を味わいつつも、「次こそは」と自らを奮い立たせ、事業に取り組んできました。課題解決の担い手がイニシアティブをとり、新しい方法を編み出して事業を推進する、さらには政策提言までです。そんなソーシャルイノベーションの担い手となる社会起業家たちの背中を押し続けてきました。

地域や社会の課題をポジティブな発想で解決する力は、企業からも必要とされる時代です。私は、今後もKiiの執行役員として、新たに設立した(一財)社会価値共創ファームの代表理事として、今後もこのテーマに取り組んでいきます。

最後に、元・浜銀総合研究所会長で、設立時から監査役として支えてくださった小林孝雄さん、これまで関わってくださったすべての方、取締役・スタッフに感謝申し上げます。皆さまのお蔭で、今の私があります。次のステージも一緒にいただけたら嬉しいです。

About

関内イノベーションイニシアティブ株式会社とは

関内イノベーションイニシアティブ(Kii)は、

2010年に、横浜市から関内・関外地区の活性化を託されたことを機に誕生した株式会社です。

フューチャーセンター機能と社会起業家のインキュベーション機能を併せ持つ「まちづくり会社」という新たなコンセプトを掲げ、そこに期待を寄せてくださった企業の出資を受け、立ち上がりました。

私たちは創業以来この地で、ソーシャルイノベーションを促進するため、

社会起業家たちの一步を後押しする支援を一貫して行ってきました。

社会起業家に対する直接的な支援から、仕組みづくり・環境づくりまで、地域と協力しながら、その時々が必要と考える事業を展開してきました。

ソーシャルな課題を解決するには、組織やセクターを超えた連携が不可欠です。

私たちもまた、「株式会社」という形をとりながら、公的機関のパートナーとして動き、

市民の声を代弁し、地域のプレイヤーたちをつなぎ、自らも「公民連携・市民協働」を体現してきました。

私たちの特徴の一つは、人材育成講座を中心とした「ソフト」(事業)と、

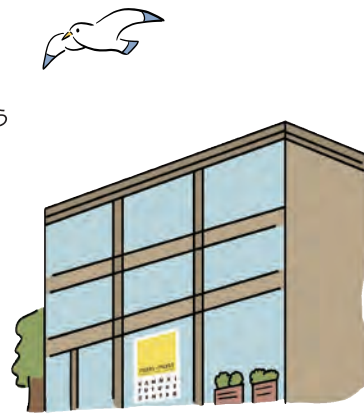
mass×mass関内フューチャーセンター(mass×mass)を中心とした「ハード」(場)の両輪を回してきたことです。

この両輪があるからこそ、様々なステークホルダーと繋がり、持続的な関係を築いていくことができました。

創業以来、起業講座の修了生は1500人、mass×massの入居者はのべ360社を超えました。

私たちにつながる関係者は、組織や分野や立場の枠を超え、実に多種多様です。その関係者のつながりは、それぞれに自律しながらも支え合う「エコシステム」を形成し、私たちもまた、その中で支えられています。

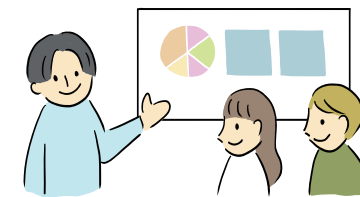
いまや横浜に留まらず、千葉県や静岡県にも取り組みが広がっています。



起業人材の育成・組織の成長支援

社会起業家や起業家の支援人材を育成する連続講座を開催。その時々潮流や地域性をふまえたテーマを選定し、厳選した講師陣をむかえ、自ら考え責任と主体性をもって行動する「自律した個人」を増やすことを目的にしています。

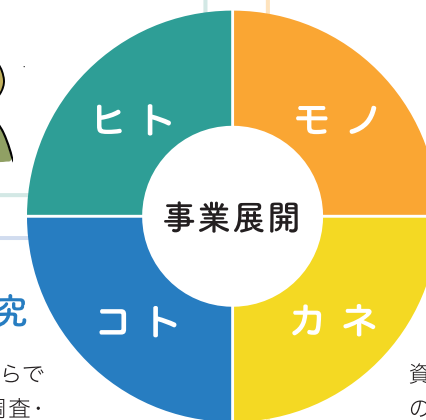
また講座開催中からコミュニティづくりを丁寧に行っています。受講生どうしのつながりは修了後も続き、お互いを支えあう関係性になっています。



施設運営

横浜でコワーキングスペースのさきがけであるmass×massを始め、複数の施設運営を行っています。

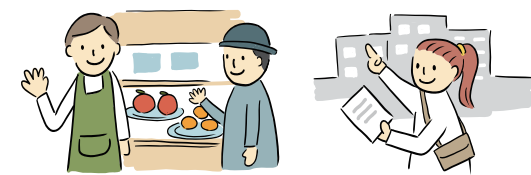
リアルな場の魅力は、多様な人たちが偶発的に出会い、新たなアイデアや活動が生まれること。そうした場の強みを活かして講座やイベント、本棚の設置など、時代にあわせて様々なコンテンツを展開。その積み重ねにより、多彩なコミュニティが育ち、共創が生まれるプラットフォームとなっています。



コンサルティング・調査研究

横浜市や企業の依頼をうけ、私たちならではの視点で地域の課題を深掘りする調査・研究をしています。ワークショップやヒアリングなどを通して課題や魅力を可視化。冊子やウェブメディア、報告書といった形でアウトプットを生み出しています。

こうした活動は地域の生活者の解像度を上げ、行政機関や企業に生の声を届ける「触媒」としての役割も果たしています。



資金獲得支援

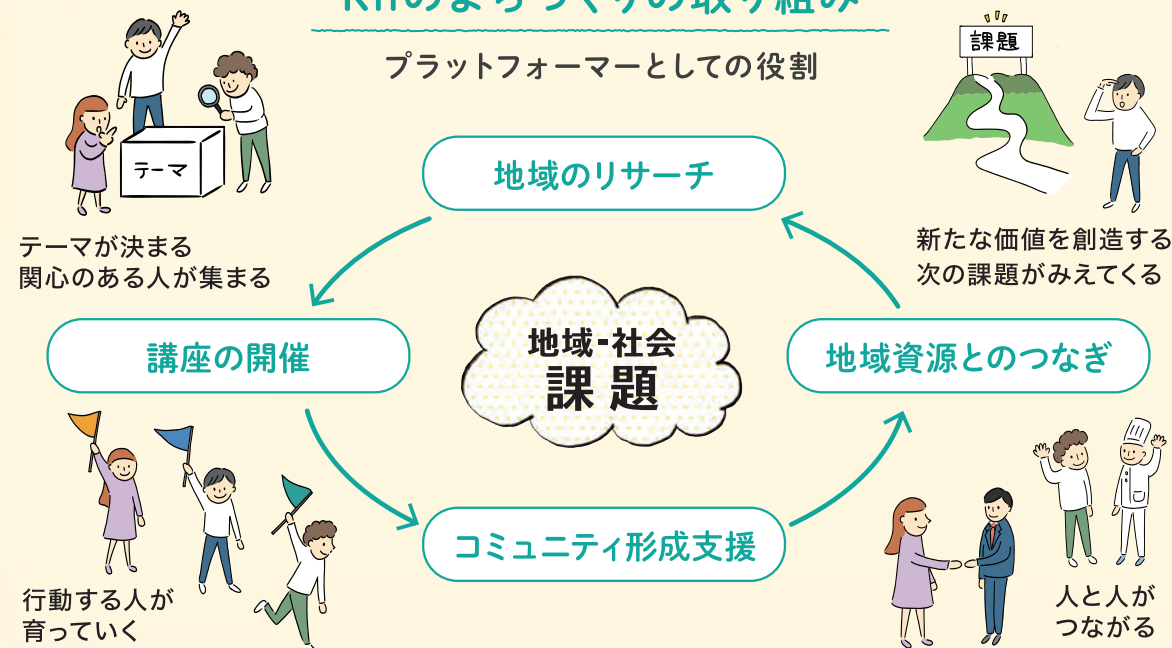
資金獲得機会の情報提供や、地域金融機関との関係づくり、クラウドファンディングの支援など、社会起業家の資金に関わるサポートをしています。

2014年からは、地元応援型のクラウドファンディングFAAVO(現CAMPFIRE)の横浜事務局も務めています。起案や目標達成のノウハウを活かし、ハンズオンで伴走しています。



Kiiのまちづくりの取り組み

プラットフォームとしての役割



用語解説

フューチャーセンター

民間企業、行政、大学、NPO、住民などあらゆるステークホルダーが集まり、対話やコラボレーションを行うことで新規アイデアや価値を創造する場。これまでのアプローチでは対処できない社会課題に対して、専門性や立場の異なる人々が領域を横断して集い、自由に関係性を形成し未来思考で対話をおこなう。スウェーデンが発祥とされている。

コワーキング

「Co(共同の、共通の)」と「work(働く)」を組み合わせた造語で、アメリカのサンフランシスコから生まれたとされる。空間をシェアするだけでなく、さまざまな所属やバックグラウンドをもつ人々が自分の仕事をしながら自由にコミュニケーションを図ることで、情報や知識を共有し共創するコミュニティであり、そのための場所のことをコワーキングスペースという。

社会的企業・ソーシャルビジネス

地域・社会課題の解決を目的として、収益をあげつつ、継続的に取り組む事業体のこと。こうした事業を創始した実業家などを「社会起業家」という。事業体としては、個人事業主、任意団体、NPO法人、株式会社、合同会社、社団(財団)法人、組合などさまざま。経済産業省の定義では、社会課題の解決を活動の主目標とする「社会性」、ビジネスとしての継続的な「事業性」、新しい商品やサービスを生み出し、社会に新しい価値を創出する「革新性」の3つの要素を兼ね備えた活動とされている。さらに当社では、コミュニティへの貢献という明確な意思をもつ当事者が意思決定に参画すること、社会的排除(公共および市場でのサービスからの除外)への理解や配慮があること、そしてアドボカシーの要素も重要視している。

History

Kiiのあゆみ

14年間のあゆみを、
創業期・定着期・展開期・未来への準備期にわけて振り返ります。



2010

2010年11月 iSB公共未来塾・横浜 第2期生として森川正信が参加

その半年後、イベント企画やWEBサイトのパンフレットなどの制作を依頼することになる。新しいコンセプトを言語化することに苦心していたので、心強い味方を得た。

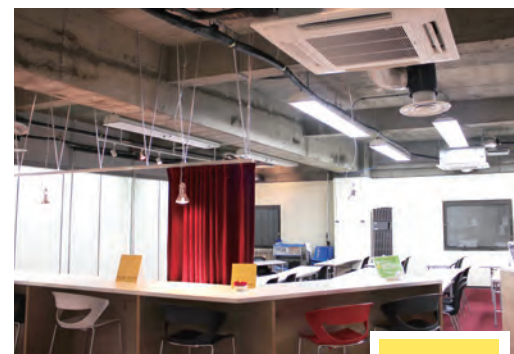


▲ ラジオDJのホズミンに取材をうける。



この時期、常設のフューチャーセンターは全国的になく、その名前にごだわりました。アーツコミッション・ヨコハマの杉崎栄介さんに相談しロゴと愛称を募集したら、天野和俊さんが事業の背景を知りたいと訪ねてきてくれ、心を動かされました。対話をして示されたのが「集まり・発展・酒の肴」という複数の意味がかけあわさった「massxmass」。すぐに気に入りました。

2011年3月11日 massxmass 関内フューチャーセンターがオープン



ロゴの黄色い四角は「付箋」を意味し、その空白は私たちが埋めるのではなく、集まるヒトやコトで埋め尽したいという想いを込めた。



2011

2010年12月 関内イノベーションイニシアティブ (Kii) 設立

横浜市都市整備局のモデル事業に、起業家支援財団と地域協働推進機構が共同提案し、受託。ソーシャルビジネスのインキュベーション機能を持つ、コワーキングスペース、ワークショップスタジオを関内につくることになった。持続可能な運営を目指し、主に横浜市に本拠を置く20社から出資を受け、関内イノベーションイニシアティブ株式会社を設立。



関内は、小さなエリアに官公庁、映画館や劇場があり、近くにはドヤ街があって、都市の魅力や問題がぎゅっと集まっている印象がありました。以前視察にいったニューヨークのタイムズスクエア周辺のまちづくりと重なり、インキュベーション施設をやるなら絶対関内で、と思っていました。



2010年2月～2012年3月 iSB公共未来塾・横浜



内閣府による地域社会雇用創造事業の一環で、起業家支援財団が横浜で展開した社会的企業支援プログラム。キックオフイベントには250名が集まった。横浜市の関連部署との接点の素地をこの時期に築くことができた。2年間で6期を実施し、修了生は400名を超えた。社会起業プランコンテストで50名を採択し、支援金7000万円を拠出。



当初開講が危ぶまれる申込数だったが、締切間近に朝日新聞の記者にアタック、新聞に載って40名が集まったんですよ。

2012年10月 マスマスカレッジ 食と農のプロデューサー養成講座

国や自治体の委託に頼るだけでは先細ると、自主事業としてマスマスカレッジを企画。第1弾はみやじ豚の宮治勇輔さんとのコラボでした。



2012

2013年6月 ソーシャルビジネスモデル研究会



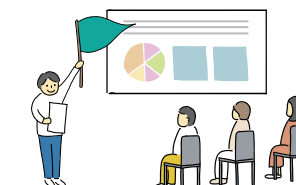
浜銀総合研究所の協力を得て、厚生労働省の社会福祉推進事業にエントリーし採択を受けてスタート。社会的企業の持続可能なビジネスモデルを等身大の経営者とともに議論。広井良典さん、小原英二さん、山岡義典さんなどのレクチャーも受ける。

2013

2012年 ヨコハマソーシャルビジネススクール(YSBスクール)



新しい公共支援事業の事業主体が国から県に移り、神奈川県から採択を受けて起業家支援財団で行った講座。1年間で3期160名が修了。3期目は100名超のエントリーがあり、会場の都合上80名に絞り、ほぼ難読者がなく修了した。参加者の熱気に事務局も圧倒された。



2013年6月 治田友香が代表取締役役に就任

治田は起業家支援財団を退職し、Kiiの代表取締役役に就任。主要株主が抜けることになり、新たな株主を探すことに奔走。1年後に2350万円に増資。初めて株式会社での経営に携わり、組織と事業を継続させる難しさを痛感。施設事業の未収金回収にも時間をかけて取り組んだ。



▲ 左から、監査役小林孝雄さん、取締役岡部友彦さん、治田友香、取締役渡邊清高さん・原大祐さん(役職は当時)。



研究会メンバーで、島根県雲南市・浜田市、徳島県神山町、東日本大震災の被災地、韓国のソウルを視察しガイドブックとしてまとめた。



QRから紙面がご覧いただけます。



まちなか社食



2013年10月 まちなか社食



社食提供の企業の少ない関内エリアで「まちなか社食」を開始。massxmassに地域の人も立ち寄ってもらえる動線づくり、マスマスカレッジでの地産地消推進を掛け合せて。お弁当販売をきっかけに、ディナータイムの顧客開拓をねらった。

定着期

2014-2018年度

横浜市からのSB講座受託を皮切りに、事業が枝葉を広げ、横浜市との関係も深化。それに伴って人が人を呼ぶ循環が生まれ、組織が自走し始めた時期でした。

2014年～2020年 ソーシャルビジネス・スタートアップ講座 (SB講座)



チャレンジの末の横浜市から初受託。1年度に2期実施。Lean Startup Japan・和波俊久さんと産業能率大学・中島智人先生の組合せで受講生に起業の動機付けをするスタイルが確立。以後2020年まで継続。310名が修了した。



2014



シガのコメント

講座は無料開催にこだわっていたので、本当にいろいろな属性の方が混ざって、価値観が混じり合う場でした。現取締役のあらいきよてるさんをはじめ、講座受講生として出会ってスタッフになった人もたくさんいます。

2015年～2017年 かながわボランティアエース プログラム



かながわボランティア活動推進基金21の団体成長支援事業として採択を受ける。多摩大学の松本祐一教授とのコラボ。成長志向のNPO経営者、運営責任者を対象に、5年先を見据えた中長期計画の策定を通して組織の基盤強化を図った。3年間で29団体を支援。



2016

2016年～2018年 ヨコハマ・イノベーションスクラム プログラム



さらなるステージアップを目指すソーシャルビジネス事業者を対象にしたプログラム。座学に加え、事業者に即したプロボノ人材とのマッチングを図り、各分野に精通したアドバイザーが伴走。参加事業者間が励まし合い、互いを高め合う場も提供した。3年間で20事業者を支援。



2018



シガのコメント

この冊子は人選も私たちがらさが出ていますね。横浜市のご担当者もとても乗り気でした。写真も文章もみんなで作りあげて、スタッフも成長しましたね。

2018年～2019年 ソーシャルネクスト YOKOHAMA



QRから紙面がご覧いただけます。

次世代のソーシャルビジネスに必要な視点を学び考える機会として、YCC ヨコハマ創造都市センターにて開催(横浜市委託事業)。事業分野の枠を超えて、自治体職員、企業、ソーシャルビジネス事業者、プロボノなど支援者が一堂に会する温かい場となった。成果物としてタブロイド版の冊子を作成。

2018

2014年5月 FAAVO横浜事務局として クラウドファンディングに着手

ベンチャー企業・サーチフィールドによる、購入型クラウドファンディングサービス「FAAVO」。地域の人々が地域のプロジェクトを応援するコンセプトに共感し、FAAVO初の市区町村単位エリア事務局としてリリースした



2014年～ マスマスカレッジ実践創業講座

有料の自主企画講座をスタート。特定創業支援事業に認定されているため、受講者は登録免許税の減免、市の助成金、融資制度の優遇などのメリットが受けられる。2016年からオンライン講座となったが、現在も継続実施中。2024年にリニューアル予定。



2015

2015年3月 TENTOを新設



神奈川県山北町の間伐材を活用して作ったシェアオフィスTENTOをmassxmassの中に新設。横浜の水源地である山北町の課題と都市をつなげる構想を具体化した。共感して入居した初期メンバーは現在様々な場所で活躍中。



森のコメント

山北町に通っている人からご相談をうけ、使わない間伐材が余っていることがわかったので、プロジェクトメンバーで見に行ったことが発端でした。ちょうどその頃シェアオフィスの増設を検討していたので、TENTO構想がはじまりました。

2016年 アメリカ・ポートランド 視察ツアー

「Touch Portland」はチャレンジに溢れる街として注目を集めるポートランドで、食・クラフト・クリエイティブといった多様なシーンで、大量生産・大量消費とは異なる価値観を実践している人々に触れたツアー企画。ツアー後はポートランドの魅力を伝えるmassxmass cafeを開催した。



2017

2016年12月 『横浜の食卓』出版

TSUBAKI食堂の植直樹さんから出版の相談があり、執筆者としてNPO法人森ノオト、写真は川名マッキーさんといった具合にチームを組み資金はクラウドファンディングで調達。横浜の農家の声を取材し、レシピを紹介した。



2017年～2021年 あおばセカンドキャリア 地域起業セミナー



地域包括ケアシステムのよりよい運用のため、セカンドキャリアとして地域での起業を促すセミナー。受講対象は65歳以上の高齢者としたが、30代からの参加もあり、地域貢献志向の区民のニーズと合致した。のちに「次世代郊外まちづくり事業」に発展。



展開期

2019-2020年度

コロナ禍で、「これから」への準備が加速した時期。事業領域はソーシャルビジネス支援から「まちづくり」へと拡張し、新たな可能性を探り始めた時期でした。

コロナ禍突入



シガ/コメント

伊藤羊一スクール長とは面識がなかったのですが、SB講座の受講生につないでいただいたところ、横浜とのご縁もある方でお声かけに間違いがなかったと確信しました。

2019年～2020年 YOXO イノベーションスクール

横浜市イノベーション拠点・YOXOBOXで行ったスクール事業。伊藤羊一さんをスクール長に迎え、第1期は100名に届く反響があり70名に絞って開講。しかしまもなくコロナ禍によりオンライン講座に切り替えた。4期で180名の修了生を輩出。参加者は30～40代の大手企業のビジネスパーソンなど、副業の方が多く、SB講座とは異なる層が参加した。



2019

準備期

2021年度～

設立から10年が過ぎ「これから」に向けた新たなチャレンジに踏み出した時期。私たちの新たな可能性を広げる挑戦は、まだまだ続きます。



森川/コメント

資金をクラウドファンディングで集めて、94人の方に合計250万のご支援をうけました。今は小学校4年生から80代まで幅広い世代の74名の書店主があつまっています。
(2023年3月時点)



QRから紙面がご覧いただけます。

2021年6月～ mass×mass 1階リニューアル Local book store kita.



コロナ禍を経てワークショップスタジオをワークスペースに変えることに。そのリニューアルに伴い、1階に本屋をつくることになった。吉祥寺の「ブックマンション」を参考に、1箱1オーナーで書店主が集い、みんなで運営する本屋がオープンした。



2021

2021年～2023年 ニューノーマル社会における商店街活性化促進プロジェクト



横浜市経済局の委託事業。市内31の商店街の役員や会員が集まって講座と現地視察をとおして商店街の未来を考えた。各地で奮闘している若手の店主が横につながりネットワークを構築する機会となった。2023年には視察先商店街の様子やプロジェクトに参加した商店街の事例を一冊にまとめた「進化する!ハマの商店街」が完成。

2020

2020年2月 ヨコハマミライト ハートに火をつけて



コロナ禍前夜にグランモール公園とその周辺で行った野外イベント。横浜市温暖化対策統括本部との共催で、三菱地所が協賛。ピアバイク、くんくんウォーク、テロリアン試乗、ゆるスポーツ、マスママルシェ、キッチンカー、トークイベントなど盛りだくさん。



シガ/コメント

この頃のみなとみらいは冬の夜に賑わいがなかったことが課題となっていました。公園利用は通常1年かけて調整するところ、大幅に短縮して準備し周囲を驚かせました。SDGs、エシカル、地産地消など色々な要素をもちこんで、人脈も総動員して頑張りましたね。

2020年7月～ ぬましんCOMPASS



沼津信用金庫が運営するシェアオフィス・ワークスペース・ワークショップスタジオの機能が1つになったまちづくりプラットフォーム。沼津信用金庫から自分たちのスペースにTENTOのような空間をつくりたいという申し出を受けてプロデュースし、その後、連携事業という形になった。



森川/コメント

横浜での取り組みを他の地域で展開する、最初のきっかけとなりました。

2020年～2022年 次世代郊外まちづくり「プロボノ実践講座」

横浜市建築局と東急・横浜市青葉区との協働事業。青葉区でプロボノを行いたいと考えている人を対象に講座を実施。その後、受講生の中から希望者を募り、区内の3団体を支援した。3年に渡る事業のまとめとしてイベントを開催したほか、次世代郊外まちづくりの10年の取り組みをまとめた冊子も作成した。



私を活かす、暮らす街との関わり方

プロボノ実践講座

2021年7月～ YOKOHAMA FOOD LOVERS プロジェクト



ものづくり補助金を活用した飲食店支援事業。ファンに支えられた飲食店はコロナ禍であっても継続するという仮説のもと、3つの事業を展開。飲食店とファンが参加する講座、受講生対象にした総額100万円の応援金、ヒューマングルメサイト「YOKOHAMA FOOD LOVERS」の開設を行った。サイトでは関内外の飲食店に関する情報発信やイベントを行うほか、2023・24年とOZマガジン横浜とのタイアップ記事も実現した。



QRから紙面がご覧いただけます。



OZマガジン横浜

2022年 YOKOHAMA Hack!



横浜市のデジタルガバメント推進事業として受託。Gateという市長出席のイベントやDX企業を集めたワーキングの開催、実証実験の支援、ウェブサイトの制作を実施。横浜市のDX(デジタルトランスフォーメーション)事業のスタートに貢献した。

2022年~2023年 湘南セカンドキャリア 地域起業セミナー

地域起業を志す方を対象とした、事業計画や収支計画の考え方などを学ぶ連続講座。ワークショップや現地視察も盛り込み、地域で活動を始めるための最初の一步を応援した。藤沢市協働モデル事業。同様の講座は沼津でも展開し、沼津信用金庫主催で「第1期NUMAZUセカンドアクション講座」を実施した。



2022年 脱炭素ライフスタイル 創出・浸透事業

横浜市温暖化対策統括本部、あいおいニッセイ同和損保の共同事業。トークイベント、事業創発ワークショップ、専門家によるレクチャー動画制作、シェアサイクル実証実験など運営事務局として参画。大企業、ベンチャー企業、NPOなどの多様な参加者を得て、カーボンニュートラル実現に共感コミュニティの有効性が確認された。



2022

2023年4月~ 一般財団法人 社会価値共創財団 設立



長年の構想であった財団を立ち上げることになり、基本財産等の調達をクラウドファンディングで挑み、490万近く集めることができた。4月に設立登記、5月には設立記念パーティーを行った。公民連携、市民協働を株式会社との両輪で推進する第一歩を踏み出すことができた。

S O W T

一般財団法人 社会価値共創ファーム

▲ 2024年一般財団法人社会価値共創ファームSOWTに名称変更。

2024

2024年5月~ KANMATCHプロジェクト benten103オープン



神奈川県住宅供給公社と賃貸住宅「フロール横濱関内」のコミュニティラウンジを共に運営することになり、ディレクター業務を受託。先行する取り組みとして大学生が主体となるDIVEを始動。横国大・東海大の学生によるプロジェクトを行ってきた。「benten103」は会員登録したら打ち合わせやイベント時に利用できる。



治田'sコメント

人生100年時代を豊かに生きるには、社会参加は不可欠ですね。この事業はシニア世代の新しい仲間づくりや学び直しにつながっています。

2022年7月~ 佐原のあしたプロジェクト



歴史的な町並みが残る千葉県香取市佐原を舞台に、地域の様々な課題に対して、地域資源、ネットワーク、デジタル技術を組み合わせ、これからのローカルビジネスを共創する実践型プログラム。株式会社NID主催。2023年度から佐原信用金庫が参画。



2023

2023年7月~ 就労的活動支援事業 よこはまポジティブ エイジング

横浜市健康福祉局の事業。西区・金沢区がモデル地区。シニア世代の人たちと地域の企業・団体の地域貢献活動をつなぎ合わせるプログラム。基礎講座受講後、個人やグループで地域の企業・団体での活動に参加する機会をマッチングした。



Interview

お世話になった方々へのインタビュー

14年間でお世話になった方々は数えきれませんが、その中から7名の方々に話を伺いました。

株主、講座の講師や受講生、事業パートナー、TENTO入居者など関わり方はさまざまです。

出会ったきっかけや思い出、Kiiへのメッセージなど、貴重な話を聞かせていただきました。



栗田 秀臣さん

株式会社ケイエスピー
インキュベート投資事業部 担当部長
インキュベーション・インベストメントマネージャー

KSPでディープテック分野の起業支援をしています。治田さんが起業家支援財団にいる頃に知り合い、2010年のモデル事業に私が調査員として参画。その後、治田さんがKiiを起業、代表に就任し、当社は縁あって株主になりました。

Kiiの起業家育成講座で何回かお話ししました。受講生は覚悟を持った人だけでなく、起業仲間を探している、起業する人を応援したいといった方もいて、Kiiは起業に関連する裾野を地域に広げる役割を果たしていると感じました。

YOXOイノベーションスクールでは、受講者に大企業に勤めている人が多く、副業人材の可能性に気づかされました。社外に活躍の機会が持てれば、働き方の選択肢は広がる。そこで当社でも、副業人材を対象とした事業を開始しました。

Kiiの価値は地域に根を張って個々の事業者と向き合い続けていることです。

ただ今後はソーシャルビジネスの環境も変わっていきます。最近、投資の世界では、経済的な利益だけでなく社会の課題解決をめざす企業に投資が集まっています。「ソーシャルだから小さくていい」という発想ではなく、可能性を拡げ、大きなビジョンを描くことが求められていると思います。

2014年から7年間、ソーシャルビジネス・スタートアップ講座で講師を務めました。2010年に森川さんとスタートアップウィークエンドで出会い、声をかけていただいたのがきっかけです。

ヒト・モノ・カネ・情報の経営資源に乏しいのがスタートアップですが、学ぶ場をつくり、同じ志を持った人たちが繋がるコミュニティとして、この講座を横浜で提供し続けた意義は大きいです。横浜に面白い人たちが集まってきていましたよね。もう一度、講座を復活させてほしいと願っています。

ただ、時はたち、現在起業講座が乱立し、ソーシャルビジネスという言葉自体が昔のような力を持たなくなりつつあります。今は「ビジネス」に寄らない、一個人でも実現可能な「小さなやさしさ」を繋ぎ集めながらサステナブルに社会を変えていく新たな仕組みに興味があります。

ソーシャルビジネス・スタートアップ講座は修了生が300名以上いて、多様な分野にわたる起業家を輩出してきたことが強みです。過去の受講生がこれから起業を志す受講生を支えるような、恩送りの仕組みとそのデザインができればいいですね。



和波 俊久さん

Lean Startup Japan LLC 代表



北原 まどかさん

認定NPO法人森ノオト 理事長

森ノオトは市民ライターを育成し、市民目線で情報を発信する、ローカルジャーナリズムを基軸とした活動を展開する組織です。

最初の出会いは、市民活動に関わる会合で治田さんにお会いしたことでした。メディアを軸とする市民団体という点に価値を感じてもらい、Kiiの講座で登壇の機会をいただきました。2015年には治田さんに森ノオトの理事を依頼し、mass×massと協働で「地域をつむぐローカルジャーナリズム講座」を開催しました。

同時期にKiiのボランティアエースプログラムに参加し、松本祐一先生(多摩大学教授)によるNPOマーケティングをインプットする機会を得て、中長期計画の策定を通して、戦略を立てて終わりではなく、時間や空間をお金で計算する意識が生まれました。

ちょうどその頃、フリーランスの仕事と煩雑なNPO運営の兼業に無理が生じ、NPOに集中して事業を育て、お金を回せるNPOにしようと思えました。その後2016年に常勤職員を雇用、担い手も育ち、2023年12月に認定NPO法人になりました。

治田さんには森ノオトが社会に良い影響を与える組織になり、経済的に自立したロールモデルになることで恩返しをしていきたいです。



金子 真弓さん

「暮らしの保健室よこはま」
café KURIKINDI(カフェクリキンティ) 代表

「老人ホームの社長になりたい」と子どもの頃の文集に書いたように、高齢者の社会福祉に関心を持ち続けてきました。看護師として働きながら、大学で社会福祉を学びました。

そのころ近所で徘徊する認知症の高齢者を保護することが3回続きました。危機感を抱いて、高齢者の居場所の仕組みをつくらうと決意。2016年にmass×mass cafeに参加しました。

その後、Kiiの事務局スタッフになり、ソーシャルビジネス・スタートアップ講座を受講したときに、治田さんに「暮らしの保健室」の取り組みを教えてくださいました。「スタートアップにお金をかけない」「目的と手段を間違えない」といった教訓を胸に留め、mass×massで出会った方々とのご縁を活かし2019年に自宅を住み開き。「暮らしの保健室よこはま」を開設しました。カフェで悩みを抱えた方がそっと癒されたり、居合わせた人との奇跡のような出会いが生まれたりしています。

私にとってmass×massはふらっと寄れる保健室。疲れたら立ち寄り、話を聞いてもらい叱咤激励してもらえる場所です。治田さんは悩んだ時に客観的にアドバイスをくださり、マインドセットしてくれる心強い存在です。



2016年7月から3年間、TENTOに入居していました。法人化に伴い事務所を持つと考えたタイミングでした。

個々のブースは独立しながらも、まわりの声が聞こえて人の気配が感じられ、居間のようなパブリック空間には誰かが一息ついていて、そんなゆるやかな距離感と温かい雰囲気を感じました。

当時の入居者は、僕を含めさまざまな分野で起業したばかりの30代の方が多く、お互いの問題点や悩みを相談しあったり、経験を共有して解決策を探したり。今思うと、あの頃は自分にとっての「構想を練る時期」「人との結びつきを育む時期」でした。

今でもたくさんのTENTOで結びついた人々と仕事をしています。当時こぼろしさんが立ち上げた社会課題のグラフをアートで表現する「chart project」に僕がメンバーとして加わったり、空間デザイナーの除村千春さんには、現在の僕たちのオフィスの設計や、日本酒蔵のキャンプ場の設計をサポートいただくなど、複数のプロジェクトがあつた頃の繋がりが生まれました。時間を共有したことで無理なく自然に結びついた人々との関係は、今後もつづいていくに違いないですね。



藤田 雅臣さん

tegusu Inc. 代表取締役
ディレクター/デザイナー

私は、イギリスの「チャリティ」と呼ばれる非営利団体や社会的企業の制度の研究に取り組んでいて、国や自治体の持っている機能には、社会政策の観点から限界が来るだろうと考えていました。

特に日本では、公共的・公益的な領域での行政の役割が強く、個人の自由で自発的なイニシアティブが尊重されにくく、支援体制も脆弱であるため、想いをもち立ち上がった人たちが取り組みを具体的な形にするのは容易ではありません。そんな中、支援する環境を民間の力で整備するのはとても意義があることです。

私がKiiのプログラムに関わるようになったのは、iSB公共未来塾・横浜がきっかけで、7年間続いたソーシャルビジネス・スタートアップ講座では講師を務めました。講座を通して、発意をもった受講生の後押しができ、学術的な観点からも意味があることだとお伝えできたことはありがたいことでした。

2023年に治田さんが立ち上げた一般財団法人社会価値共創ファームでも評議員として参画しています。株式会社と財団法人は、形態は違えどやることは変わらず、社会的資源の受け皿として、市民の発意による公益を支えていきたいと考えています。



中島 智人さん

産業能率大学経営学部 教授



藤澤 専之介さん

M&Aドットコム株式会社 代表取締役

「面白い人たちに会いたい」という理由で、2017年にヨコハマ・イノベーションスクラムプログラムに参加したことがきっかけでした。当時は会社員。プロボノとして(株)ババカンパニーの社長のそばで働いたことで、「もっと自由に仕事をしたい」と思うようになり、2018年にソーシャルビジネス・スタートアップ講座を受講。

その後退職し、2019年にTENTO入居。1社目の「Peaceful Morning」を設立し、業務改善サービス(RPA)を展開しました。毎日通い、打合せを重ねる日々。イベントも毎月開催しました。mass×massには連続起業家もいて、刺激になりましたね。TENTOには、2022年にクラウドワークスに会社を売却するまでお世話になりました。現在は2社目の「M&Aドットコム」を立ち上げ、企業のM&Aや事業承継を支援しています。

mass×massは社会貢献への意識が高く、落ち着いた雰囲気、緊張感を和らげてくれました。男性が多いスタートアップ業界の中で、女性が多いのも特徴。その多様性の中で、共感力も高まったと思います。ビジネス一色にならず、暮らしとのバランスや人間らしさを思い出させてくれる貴重な場所でした。



Achievement

14年間の実績

起業支援

起業講座修了者数



起業講座受講者数 2,315名

マスマスカレッジ受講者数



350名

講座に登壇して下さった講師の数

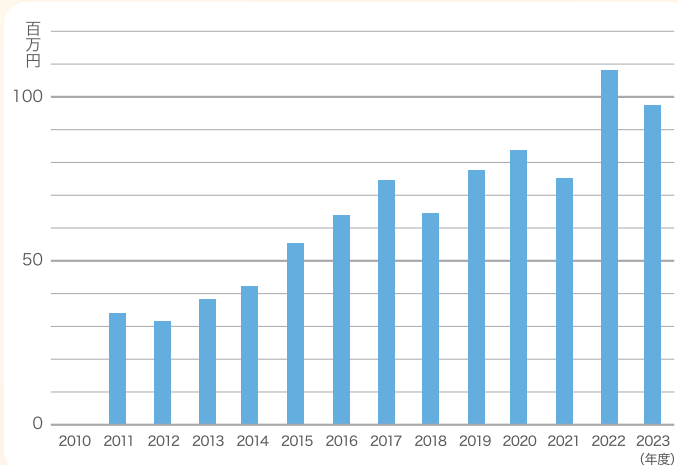
484名

創業・経営相談

479名

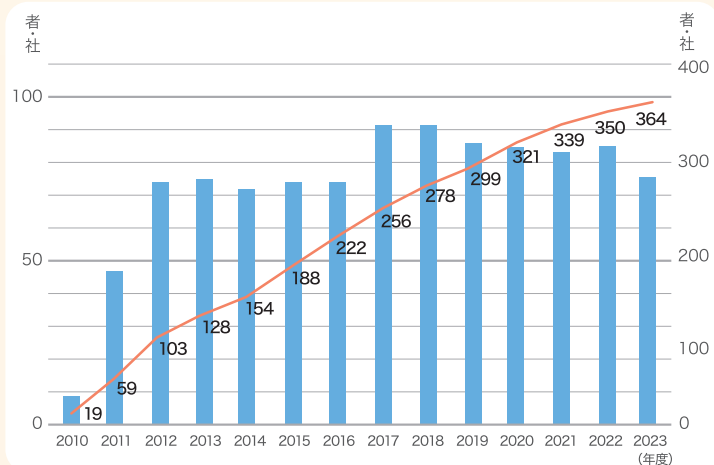
経営実績

売上推移



mass×mass入居者数の推移

3月末時点の入居者数(左軸) 累計契約者数(右軸)



輩出起業家数 **170名**

講座受講を経て、個人事業主、任意団体、NPO法人、株式会社、合同会社、社団(財団)法人、組合などを設立した人の数

ソーシャルビジネス
伴走支援 **136団体**

プロボノ育成プログラム
参加者数 **のべ385名**

クラウドファンディングの調達金額

のべ調達額

67,723,850円

達成率

41件/44件 (93%)

ALLin方式は達成とする

支援者数

4,301名 (一人平均額 15,746円)

2014年度から2023年度

クライアントの状況

行政の部局の広がり

横浜市の都市整備局から始まり、以下の自治体とも協業させていただきました。特に横浜市は多岐にわたる部署からの受託実績があります。

神奈川県

産業振興課 県民活動サポートセンター

横浜市

政策局 共創推進室、男女共同参画課

経済局 創業・経営支援課、商店街課

市民局 市民協働推進課

健康福祉局 地域包括ケア推進課

建築局 住宅再生課

都市整備局 都心再生課

温暖化対策統括本部

環境創造局 農政推進課

文化観光局(横浜市芸術文化振興財団)

青葉区 / 港北区 / 泉区 / 西区 / 金沢区

藤沢市

市民自治推進課

民間企業の主な取引先

東急 三菱地所 沼津信用金庫 神奈川県住宅供給公社 NID 佐原信用金庫 あいおいニッセイ同和損保

と協業し、事業を受託しています。

働く人

スタッフ総数

25名

(うち雇用15名・業務委託10名)

いろいろな働き方をしている
スタッフが集まっています。



副業者数

8名

25名

副業をしているスタッフが1/3。NPOや会社の代表だったり、キャリアカウンセラーをしていたりと、多彩なメンバーが在籍しています。

横浜市内に本社がある株主

12社 / 15社

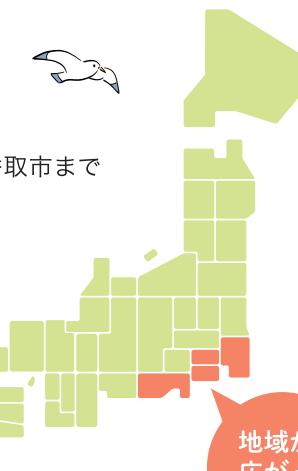
株主は地域に根ざした横浜の企業が8割を占めます。



横浜の企業
8割

地域的広がり

横浜から始まり
静岡県沼津市・千葉県香取市まで
広がっています。

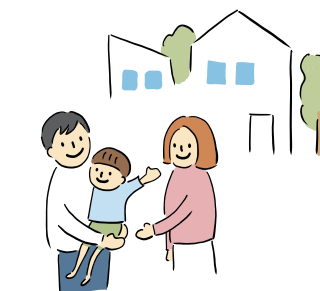


地域が
広がって
ます!

子育て中

5名

25名



講座受講生からのスタッフ

8名

25名

Kiiの講座を受講したのちに
スタッフになった人が
約1/3を占めています。

平均年齢

20代から70代まで幅広いです。

43才

代表対談

代表取締役

森川 正信



創設メンバー／執行役員

治田 友香

関内イノベーションイニシアティブ(Kii)とmass×mass関内フューチャーセンター(mass×mass)のこれまでと、これから

二人のこれまで

治田 最初の出会いは、2011年に森川さんが「iSB公共未来塾・横浜」の2期生として参加されたことでした。この講座で森川さんが発表した「書評サイト」のビジネスプランは評価されて、支援金も獲得しましたね。

森川 あの頃はまだメジャーな書評サイトが少なかったですから。その構想は、現在のLOCAL BOOK STORE kita.にも繋がっているという(笑)

治田 その後、森川さんはKiiに入社して、mass×massの募集ポスターをデザインしてくれたり。あれは、「コワーキングスペース」というまだ世の中に理解されていない概念を、新しい切り口で伝えてくれましたね。

森川 当時のソーシャルセクターの広報はデザインに無頓着で、説明口調のものが多かったので、そういう常識を覆したいという治田さんの願いを受け止めました。

治田 2014年に横浜市から「ソーシャルビジネス・スタートアップ講座」を受託しましたが、それまではなかなか事業がとれず苦しい時期が続きました。行政からの受託事業は3年で終了することが多いですが、この事業は7年間も続いて。画期的でしたよね。

森川 これが決まった時は嬉しかったですね。講座のチラシは、「まだソーシャルビジネスを知らない人たちにワクワクしてもらいたい」という気持ちで作りました。実際に受講生から、デザインに魅かれて参加したいと思ったと言われて、デザインの大切さを再確認しました。

治田 森川さんには、思い描いている世界観を的確に表現してもらえるという信頼感がありました。2018年には横浜市の委託で「ソーシャルネクストYOKOHAMA」を開催して、100人以上が参加してくれました。冊子も作って、これまでの集大成となりました。

森川 やり切った感がありましたね。冊子も気合入れて

作りましたから。難しい話をきちんと読んでもらうために、余白も大事にしてデザインしました。一方的な発信ではなく、共感してもらえるようにと。

治田 写真も文章もKiiのスタッフが手がけて、喧嘩になりそうほど意見を交わして作り上げましたよね。

お互いの強みを生かして

治田 森川さんは、mass×mass内にシェアオフィス「TENTO」を新設する取り組みも推進してくれましたね。

森川 神奈川県山北町の間伐材活用が発端でした。「IVolli architecture」(永田賢一郎さんと原崎寛明さんのユニット。現在は個別に活動)の企画で、山北町での製材作業にも通いました。1年目は入居者が集まらず大変でしたが、少しずつ個性と志ある起業家が集まり、入居者同志のコラボレーションも活発に生まれました。

治田 TENTOは、その後県外にも展開して、我々の転機になりましたよね。

森川 2013年頃、沼津信用金庫のアドバイザーでもあったNPOサプライズ代表の飯倉清太さんがmass×massを訪れてくれて。その後、TENTOのような場所をぜひ沼津にと、2020年にぬましんCOMPASS内に「TENTOぬまづ」を開設することになりました。

治田 mass×mass cafeもたくさん開催しましたよね。

森川 2013年から70回近くになりますね。印象に残っているのは、『GREEN Neighborhood』の著者の吹田良平さんとUPLIFT(当時)の一場鉄平さんを招いたポートランドの回。



治田 2017年にツアーを企画してポートランドに行きましたね。話を聞くだけではなく、次のアクションにつながっているのが有意義でした。

森川 それから、各地のローカルリーダーもたくさんお招きしましたね。徳島県上勝町、奈良県東吉野村、秋田県五城目町、神奈川真鶴町など…。入居者のヒントにもなるようにと、新しい暮らしや働き方を問うような企画をしていました。

治田 若い層も来てくれて、mass×mass cafeが良い入り口になっていました。振り返ると、デザインとコミュニティづくりが得意な森川さんに、私は外へ外へと事業展開していくことが得意、という組み合わせでした。

森川 それぞれの強みを生かしてやってきましたね。

変わること、変わらないこと

治田 14年間大事にしてきたことは、事業の委託主に時に反論しても意見をきちんと伝え提言することです。それは、市民の声を届けたいという思いがあったから。その姿勢を貫いてきたからこそ、行政などの委託主から対等な立場で協働できる相手だと認めてもらい、信頼してもらえるようになったと思うんです。企業や人を引き寄せる力もついてきたなと感じます。

森川 時代も変わってきて、特にここ10年で若い世代の価値観は変わりましたよね。資本主義的な成功だけに満足せず、地域や街の価値に気づいて、それを活かすために働くことに意味を見出す人が増えました。企業も、社会課題や地域活性化に目を向け始めています。

治田 株主にも、社会貢献を支援することの価値を見出してもらいやすくなりましたね。まだまだこれからKiiが役に立てることがあるなと感じています。

これからの「あゆみ」

治田 2023年に、一般財団法人社会価値共創ファームを設立しました。以前から構想していたことでもあって。これから私は、財団の代表理事とKiiの執行役員を兼務することになります。

森川 新たな体制のはじまりですね。

治田 森川さんには、代表という立場を楽しんでほしいです。ライフスタイルにこだわりを持って、暮らす人の視点を大切にできる個性を発揮してもらえたら。

森川 治田さんは志のある人や企業を見抜く「目利き力」がある。社会をよくできると心で信じていて、社会をよくするために活動する市民一人ひとりへのサポートを惜しまない人。そのポジティブさで、これからも引っ張ってほしいです。

治田 我々は株式会社と財団との二つに分断されるのではなく、むしろ拡張すると捉えているんです。同じビジョンと使命感を共有しているので、協業もあるでしょう。株式会社と財団法人の両輪ができて、より広く深く事業展開していけるようになると考えていますね。

森川 今年はmass×massの移転もあり、これまでの意志や方向性を大切にしながら、次の時代に向けて仲間を増やすための挑戦をしていきたいです。入居者の方々はもちろん、ご縁のある全国の実践者のみなさまと協働しながら、新しいコミュニティプラットフォームとして発展させていきたいです。



社名：関内イノベーションイニシアティブ株式会社
設立：2010年12月
資本金：2,350万円
住所：横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター

役員：
代表取締役社長 森川 正信
取締役 原 大祐 / 石井 宏和 / あらい きよてる
執行役員 角田(治田)友香
監査役 寺本 明輝

株主一覧：
株式会社アールケイエンタープライズ/株式会社 勝烈庵/一般財団法人神奈川中小企業共済会館/川本工業株式会社/株式会社ケイエスピー/株式会社経理バンク/全国デジタル・オープン・ネットワーク事業協同組合/株式会社ハリマビシステム/株式会社ブロードゲージ/株式会社マクニカ/丸全昭和運輸株式会社/三丸興業株式会社/横浜丸魚株式会社/株式会社横浜銀行/横浜エレベータ株式会社/ナイス株式会社/

〒231-0003
横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター
☎ 045-274-8701 ✉ kii-info@massmass.jp

https://kii-net.jp/
https://massmass.jp/

2024年7月 第二版
企画・発行：関内イノベーションイニシアティブ株式会社
編集・執筆：今尾江美子 / 木村郁子
対談記事(P16-17)：猪上杉子
インタビュー記事(P11-13)：猪上杉子(藤田さん) 三坂慶子(和波さん・北原さん・金子さん・中島さん)
デザイン・イラスト：戸原貴子
写真(表紙、目次、P16-17)：堀籠宏幸